

学外研究支援（海外）に係る成果報告書

2025 年 12 月 23 日

北九州市立大学 学長 様

所属・職名 経済学部・准教授

氏 名 市原 勇一



2024 年度に実施した学外研究支援（海外）について、下記のとおり成果を報告します。

〔実施期間〕 2025 年 1 月 13 日～2025 年 9 月 20 日

〔出張先〕 ストックホルム商科大学（スウェーデン）

〔テーマ〕 障害者を雇用する組織のマネジメント・コントロール・システムに関する研究

[当初の目標及び成果の要旨]

本研修の目標は、(1) 欧州における管理会計研究および社会関連会計研究の動向の調査、(2) 欧州における会計研究の拠点のひとつであるストックホルム商科大学における研究・教育実践の調査、(3) 欧州に所在する障害者雇用組織の情報収集である。

(1) 欧州における管理会計研究および社会関連会計研究の動向の調査

学会・ワークショップへの参加を通じて、当地における管理会計研究および社会関連会計研究の動向を調査した。社会学の理論を用いた定性的管理会計研究や社会関連会計研究、学際的・批判的会計研究の報告セッションを中心に参加し、報告終了後は可能な限り報告者と直接意見交換を行い、関係構築に努めた。

調査の結果、①非常に多様な研究テーマが議論されていること、②方法論や分析理論も多様であるが、多くの研究者がそれらの方法論・分析理論を基礎知識として有しており、議論が活発になされていること、③社会関連会計研究においては、環境の持続可能性に関する研究だけではなく、社会的持続可能性についての着目が徐々に増加していること、などが分かった。

今後は今回の訪問で構築したネットワークを活用し、共同研究プロジェクトを計画したいと考えている。

(2) スtockホルム商科大学における研究・教育実践の調査

ストックホルム商科大学にて実施されているセミナー等への参加を通じて、当大学の研究・教育実践について調査を行った。当大学では、①研究者・大学院生を対象としたセミナーと②実務家との交流を目的としたセミナーの大きく2種類のセミナーが実施されている。

まず、①研究者・大学院生を対象としたセミナーには、学外研究者・客員教員によるセミナー、若手研究者によるセミナーの2つがあった。いずれのセミナーも報告者が投稿中の論文や実施中の研究プロジェクトについて報告をするものであるが、学外研究者・客員教員による報告は概ね完成された研究の報告が中心であり、若手研究者による報告は研究の初期段階の報告も多いという傾向が見られた。特に研究の初期段階であっても報告・相談の機会が公式に確保されていることは非常に重要であると感じた。

②実務家との交流を目的としたセミナーでは、研究の成果を社会・実務に還元することを目的に、最新の研究の知見を分かりやすく実務家に伝えるとともに、実務家からのフィードバックの機会として機能していた。当大学では、このような実務家との交流の場を戦略的に設けており、研究・実務のよい循環が保たれていた。

教育実践については、当大学のカリキュラムやシラバスに関して教員や事務職員に聞き取りを行うとともに、Web サイトや学内ポータルを利用して情報収集を行った。日本とスウェーデンでは高等教育の制度が異なることに留意が必要であるが、当地で得た知見を自身の授業設計などに役立てたいと考えている。

(3) 欧州に所在する障害者雇用組織の情報収集

欧州の多くの国は日本よりも高い法定雇用率を設定しており、障害者雇用を積極的に推進して

いることで知られている。特にスウェーデンはサムハル(Samhall)に代表される障害者雇用企業が存在していることで有名である。こうした企業の取り組みについて、当地で資料を収集するとともに、研究者や実務家への聞き取り調査を実施した。具体的には、調査中の企業の子会社がパリに所在していたことから、当子会社の担当役員との面談の機会を得ることができ、欧州での事業展開などについて聞き取りをすることができた。また、当担当役員より欧州の障害者雇用企業の紹介を受けることができた。

今後は引き続き情報の収集に努めるとともに、出張中に得られたネットワークを活用し、研究を進めていきたいと考えている。

■以下該当ある場合は記入して下さい。

[成果の公表]

- How do management control systems affect the inclusion of people with disabilities? An exploratory study、The 10th Bristol-Kyoto Qualitative Research on Accounting Workshop、京都大学（学会発表）

[参加した学会・研究会・講演会]

- 2025 年 4 月 3 日～4 日、The 10th Bristol-Kyoto Qualitative Research on Accounting Workshop、京都大学
- 2025 年 4 月 28 日～29 日、Management Accounting as Social and Organizational Practice (MASOP) 2025、ESCP Paris
- 2025 年 4 月 30 日、Workshop “Control as Practice”、ESSEC Executive Education
- 2025 年 5 月 28 日～30 日、The 47th European Accounting Association (EAA) Annual Congress、LUISS Guido Carli
- 2025 年 6 月 10 日～12 日、The 14th European Network for Research in Organizational & Accounting Change (ENROAC) Conference、The University of Tartu
- 2025 年 9 月 11 日～12 日、The 11th Bristol-Kyoto Qualitative Research on Accounting Workshop、The University of Bristol